



1 恩師に嬉しい成果報告!

県立水戸第三高等学校



(左から) 南雲康司校長、廣木優香さん、薄井篤史教諭



恩師の薄井先生に成果を報告する廣木さん(右側)

生産管理コース2年の廣木優香さんが、資格取得や大学進学などの成果を母校の恩師に報告しました。

訪問した水戸第三高等学校の南雲校長からは「本校の吹奏楽部でもOGとして頑張っているし、IT短大でも国家資格を取得するなど頑張っている。更に応用課程への進学おめでとう」と激励を頂きました。高校2、3年で担任としてお世話になった薄井篤史先生は「廣木さんは、高校時代から根性や集中力があつたので、しっかり成果を出している」と嬉しそうに話されていました。廣木さんは「久ぶりの母校は新鮮で温かく迎えて頂きました」と感謝していました。

県立鹿島高等学校



(左から) 小川幸乃さん、坂本琴子さん
恩師の阿部郁子先生、田畑潤さん



恩師の阿部郁子先生(中央)に成果を報告する
小川さん(左側)と田畑さん(右側)

システムコース2年の田畑潤さん、セキュリティコース2年の小川幸乃さん、坂本琴子さんが資格取得や就職内定などの成果を母校の恩師に報告しました。

訪問した鹿島高等学校の阿部郁子先生は「しっかり資格も取り、進路も決めて報告に来てくれて本当に嬉しい」と笑顔で話されていました。小川さんは武田孝太先生から「学生の内に、やれることをやっておきなさい」とアドバイスを頂きました。坂本さんは「担任の阿部先生にお会いできて良い日でした」と振り返っていました。田畑さんは山口薫先生から「学んだ物理を活かしたシステムを作って欲しい」と激励を受けていました。

2 『記事トレ』紹介



本校では、IT専門力に加え社会人基礎力の向上のため『記事トレ』を実施しています。新聞を読み、要約とIT技術者としての感想を書くトレーニングを通して読み解く力を育成します。

＜記事トレ＞読売新聞(2025年6月11日)
本との出会いの場を広げたい

●水地穂吏さん(常磐高卒)

◇要約: 書店は本と人をつなぐ地域の文化拠点であり、その存在は人々の教養や人間形成とも深く結びついている。書店は各地で急速に減り、読書離れは深刻になっている。本に親しむ機会を設けるなど、読書人口を増やすための工夫が必要だ。

◇感想: 書店が各地で急速に減っていることで、知の格差が生じかねない状態である。また、海外の政策を参考にするのもいいと感じた。私は本を一か月に二冊は読むことを目標に、学び続ける姿勢を大切にしていきたいと思った。

●千葉春奈さん(多賀高卒)

◇感想: インターネットの普及で本を手に入る機会は減ってしまったことは否めないが、本を探す過程の体験も楽しめるところが書店や図書館の利点だと思う。

これからの世代の人にも、その楽しさを感じて欲しい。書店を支えていって欲しい。

●川尻恭矢さん(土浦三高卒)

◇感想: 実際に本を読むのは大切だと感じる。知らない表現や漢字を知る機会となる。また、新しい価値観を取り入れることもできる。最近、漢字を書けない人が増えている。「知の格差」が広がらないように、国としての施策を見直すべきであろう。

●山中咲季さん(多賀高卒)

◇感想: 自分も高校や中学の時と比べ読書量が大幅に減少している。これから読む機会も増やしていきたいと思った。

また、積極的に図書館や書店を活用することで書店の減少を防止していきたい。そして都市との「知の格差」をなくしていきたい。

●照山裕人さん(小瀬高卒)

◇感想: 各地で書店が減っていることを初めて知った。私も書店に行き、普段だったら読まないような本を手にとったことがある。そうした機会は減って欲しくない。

私は、駄菓子屋が徐々に減っていると感じている。駄菓子屋は子どもたちのコミュニケーションの場である。減少を防ぐ制度を設けて欲しい。

